

学長式辞

新しく入学された学部生、大学院生、別科助産専攻生の皆様、ご入学おめでとうございます。そして、この日を迎えられました保護者の皆様、誠にありがとうございます。

本学は、「ナイチンゲールの夢を宮崎に！」という言葉掲げ、九州初の公立看護大学として誕生しました。そして、看護を学問的に追究する大学として現在まで 25 年の歳月を刻んで参りました。送り出した卒業生・修了生は 2531 名となり、それぞれが本学での学びを活かし、看護の場で活躍をしています。これまでの日々を支えてくださいました、本日ご臨席の皆様および多くの方々に、深く感謝申し上げます。そして、本日入学された皆様には、この先輩方に続き、素晴らしい看護師となるべく、充実した学びをされることを期待します。

平成 9 年に看護の単科大学として出発した本学が、「大切にしてきたことは何か」「本学の誇れるところは何か」と自問自答した時、私が確信していることがあります。それは、本学の学生が「看護とは何か」「どうあるべきか」という問いに対して、しっかりとした自分なりの考え方、いわゆる看護観を持ち卒業していくことです。これは、看護師を育てる大学として、今後も大切にしなければならないことだと考えています。

ある一例をお話ししましょう。

秋が深まったある日、長い闘病生活を送られている患者さんが「今ごろは、紅葉がきれいなのでしょうね」とつぶやかれました。それを聞いた看護師は、翌日、とてもきれいな一枚の紅葉を患者さんに渡しました。そして、数日後、車椅子で家族をまじえて病院の庭にある紅葉を見にいったのです。このことが、その後のこの方の闘病意欲に大きな影響をもたらしたことは言うまでもありません。

さて、これは誰にでもできることでしょうか？

お話しした看護師の行動は、「看護とは何か」「どうすることがその方にとって必要な看護となるのか」という看護に対する考え方、看護観に導かれたものなのです。そして、この実践に至るには、看護師の様々な力が必要とされるのです。まずは、「今頃、きれいなのでしょうね」とつぶやかれた時の表情、声のトーンをとらえる看護師のするどい観察力と感性、長く苦しい闘病生活を送っている方の立場や思いを理解する力、そして、病院の庭とはいえ、紅葉を見に行くことが可能なかを判断する力、その実現にむけて看護・医療チームと調整する力、さらに、家族と時間を共有することの意味と重要性を考え、家族も含めた看護を考え展開する力が必要なのです。当然のことながら、実践に当たってはこの方の生

命力の消耗を最小限にするための熟練した看護の技が必要となります。そして、この看護に一貫して流れているのが、人間への深い理解と、誠意を込めて看護に当たる姿勢なのです。ご紹介したこのエピソードは本学の卒業生、皆様の先輩が行った看護です。

学部生の皆様は、これから様々な学びを深めながら、相手の立場に立ってその方にあつた看護を展開するための知識、技術、態度とともに、揺るぎない看護に対する考え方を培います。大学院生や別科助産専攻生の皆様は、自己の看護に対する考え方をさらに発展させていきます。このプロセスを通して、皆様は、職業人として、そして人としての成長を遂げていくことになるでしょう。この教育に全教職員で取り組んでいることが、本学の誇れる伝統の一つだと言えます。

長年続く伝統文化の維持・継承に携わっている方が「同じ事をずっとし続けることが伝統を守ることではない。そうするとその伝統はすたれる。」と言われました。先に述べました本学の伝統が継承され続いていくには、伝統を守るための創意工夫や改善が必要だということでしょう。この「伝統」と「創造」が一体となっこそ、本学の発展があるのだと考えます。伝統としてきたことの本質を理解し、現在の社会状況・医療状況などを踏まえながら、教育活動に活かすことが我々教職員には求められますし、学生の皆様には、様々な学びを通して看護の本質を理解し、看護者としての自分をつくり、高めていくことが求められるのだと思います。

大学は、専門分野を発展させるための「知」の創出の場です。

大学の教員はこの「知」の創出のために日々研究にいそしんでいます。学生の皆様には、「知」の創出のプロセスを学ぶ中で、研究的視点で物事を捉え、日々の看護実践をよりよいものにしていく力を身につけてほしいと願います。

冒頭で述べました、「ナイチンゲールの夢を宮崎に！」これはどういうことか、それを理解し、それができる看護者をめざす旅が今から始まります。皆様が充実した学びができることを心より願い、学長式辞といたします。

令和5年4月5日

宮崎県立看護大学

学長 長鶴 美佐子